

平成28年度 第4回小平市子ども・子育て審議会 会議要録

と き：平成29年3月22日（水）午後1時30分から3時20分まで

ところ：小平市役所6階 大会議室

1. 出席者等

子ども・子育て審議会委員・・・・・・9人（欠席7人）

傍聴者・・・・・・・・1人

2. 配付資料

資料①「平成29年度 子ども家庭支援センター事業計画」

資料②「平成29年度 児童館事業計画」

資料③「平成29年度学童クラブ事業の開設等について」

資料④「平成29年度小規模保育事業の開設について」

3. 内容

議事

- （1）平成29年度子ども家庭支援センターの事業計画について
- （2）平成29年度児童館の事業計画について
- （3）平成29年度学童クラブ事業の開設等について
- （4）平成29年度小規模保育事業の開設について
- （5）その他について

4. 上記内容についての意見・質疑応答

- （1）平成29年度子ども家庭支援センターの事業計画について

委員 審議会資料①「平成29年度 子ども家庭支援センター事業計画」の「事業目標」では「こども」と表現されている。文章中では、漢字とひらがな交じりの「子ども」と表現されているが、平仮名の「こども」と区別しているのは、意味があるのか。

事務局 小平市子ども家庭支援センターは固有名詞として、漢字とひらがな交じりで「子ども」と表現している。固有名詞以外の文章では、できるだけひらがな表記にするようにしている。

事務局 小平市では漢字とひらがなによる「子ども」という表現に統一して使用しているが、子ども家庭支援センターは専門性のある指定管理者にお願いしており、

理念については指定管理者の表現を尊重するようにした。

委 員 資料①の中に「スーパービジョン」や「エンパワメント」などのカタカナことばがあるが、調べなければ意味が分からなかった。最近ではカタカナ言葉が文章中に使われることが多いが、分かりやすい表現にすべきだと感じる。

事務局 子ども家庭センター等で日常的に使っている言葉であるため、資料でも使用してしまった。今後は分かりやすい言葉を使うよう気をつける。「スーパービジョン」は、元児童相談所職員などがケースワーカーへ相談活動の助言をすることを指している。「エンパワメント」は、相談を受けるときに相談者本人や保護者の持っている力を発揮できるようにすることを考えて使っている言葉である。

委 員 資料①には「関係機関」として学校が載せられているように、小学校は子ども家庭支援センターにいつも助けられている。

事務局 資料①の「ネットワーク強化」の箇所にも学校を載せているが、学校との関係はすでに構築できており、今後はいかにうまく連携していくかを考えていく段階だと考えている。様々な相談対応や支援が求められる中、職員不足の御心配をいただくこともあるため、学校と役割分担しながら、センターが十分に機能していく必要がある。

会 長 縦割り行政ではなく、市と教育委員会の連携が図られていることがわかる。事業者の独自性を尊重することと利用者へきちんと届くことを考えて用語を使ってもらいながら、今後の事業を進めてほしい。それでは、「平成29年度 子ども家庭支援センター事業計画」については了承を得られたものとしてほしい。

(2) 平成29年度児童館の事業計画について

委 員 平成29年度に新たに実施する「BPプログラム」とはなにか。

事務局 0歳児のお子さんを初めて育てている人の仲間づくりや、親子のふれあい、育児知識の学習などを直接的な目標としたプログラムである。親子の絆づくりや、産後うつ病の予防、虐待防止などの目的がある。

委 員 特別な講師を招くのか。

事務局 ファシリテーターという資格を持った児童館職員が、講師のような立場で講座を盛り上げていく。4回連続講座を年間3回行う予定である。

会 長 ファシリテーションとは、「円滑な支援」という意味である。主役は当事者である親と子であり、ファシリテーターは先生のように何かを教えるのでも、後ろ

に控えてサポートするのでもなく、プログラムを運営・進行していく役割である。ニーズのある人たちの思い・考えを代弁しながら、講座をコーディネートしていく。最近はワークショップ式の研修が主流となっており、その中でのファシリテーターの役割は重要である。この資格というのは、民間のファシリテーター協会が与えているものである。

委 員 保育園の立場としては、ＢＰプログラムは保育園が地域子育て支援事業として担うことが期待されており児童館に任せてしまっていることは悔しい。保育園は地域子育て支援事業や虐待対策も任され、大変な状態である。鈴木保育園を民営化してから地域支援担当の保育士をふりわけているため、保育園も子育て支援のことをもっと考えていかなければならないと思う。

事務局 児童館も保育園も市の施設であり、市が一体となって地域の子育て支援を進めてきている。公立保育園でも地域子育て支援活動を行っているように、今後もできることを行っていこうと考えている。

会 長 従来、専門性のある保育園や幼稚園が主に子育て支援を担うものであるという位置づけもあるが、保育園や幼稚園だけが責任を感じる必要はない。小平市の子ども・子育て支援事業計画の各事業の方針としても、保育園だけが子育て支援を担当しているのではない。それぞれができる範囲で取組み、連携し合うことが大切である。

委 員 出産前に児童館へ行くことはあまりないと思うが、どのように告知するのか。
事務局 市報や地域子育てカレンダー、健康診断の場などで周知している。児童館に実際に見学に行ってもらうとより分かりやすいと思う。

委 員 児童館や子ども家庭支援センターでは様々な行事が行われており利用しているが、それらがある地域は市内で偏りがあるようにみえる。新設は難しいと思うが、広い範囲で行事などを利用できるようにしてほしい。

事務局 児童館のない地域では子ども広場や子育てふれあい広場を実施している。現在実施している子育てふれあい広場や公民館などでの出張児童館を今後も実施し、児童館を体験できる機会を増やしていこうと思う。また、元保育士や民生委員・児童委員が相談員として関わる子育てふれあい広場も実施し、広く相談を受ける場も設けている。

委 員 現在の指定管理者である葉隠勇進(株)の指定管理期間は平成２９年度末で終わることになっているが、次の指定管理者の選考は、いつ頃から始めるのか。金額や事業内容など、選定のポイントは何か。

事務局 12月議会で指定管理者指定の議案を提案する予定である。それに向けて募集と選考を行っていく予定である。1月に公表する予定である。選定委員は弁護士、公認会計士や有識者などが務め、指定管理料だけでなく、事業内容やこれまでの事業実績も踏まえながら事業者を選考していく。

会 長 平成29年度児童館の事業計画について、了承を得られたとしたい。

(3) 平成29年度学童クラブ事業の新設等について

委 員 平成30年度の新設クラブとして上宿小学童クラブ第二があるが、この開設スケジュールであれば、30年度の新設クラブは他にないのだろうか。もしないのであれば、事業計画の推進状況の平成30年度の確保数には「33か所」と数字を入れられるのではないか。

事務局 33か所になる予定ではあるが、まだ確定の数値ではないため、確保数に入っていない。

委 員 確定した数値を示すことは大事であるが、括弧をつけて表記するか、仮の数字として出せないか。数字が書かれていないと、どこかのクラブを閉鎖して減る可能性があるのだろうかと感じてしまう。

事務局 約20クラブで定員を超えているため、今の状況であれば、今後数年間は入会希望者数が減ることはないだろうと予測している。

委 員 4年生以降も受け入れていくことはないのか。

事務局 しばらくは1年生から3年生の入会希望者で待機児童を出さずに受け入れることを一番に考え、学校などと調整を進めていく。ただし、児童福祉法の改正もあり、4年生以降の受け入れの検討も必要であると考えている。

委 員 民間事業者は参入しないのか。

事務局 民間事業者からの開設の提案や情報提供はない。現在のところは、直営や指定管理者による公設民営の形で運営していく。

委 員 学年毎に何割の児童が入会希望するかという算出はしているのだろうか。就学前の5歳児は、保育園6割、幼稚園は4割である。保育園から学校に上がると、6割の児童が必要とするだろう。2年生や3年生になっていくにつれて、減っていくのだろう。2年間継続して増えてから1年かけて新設するという後手の対応ではなく、どのくらいの割合かを推測して計画しているのか。

事務局 ここ2年程は児童全体の3割程度である。学年ごとの希望者は年度ごと、地域

ごとに全く異なるため、割合・数値を簡単に出すことは難しい。前年度は定員を1人超えていた学童クラブが、次年度には定員21人以上となるケースもあり、また、減少するケースもある。そのため、2年間継続して多いという状況をみて対応していく。施設などを借りている学校とは2・3年前から調整が必要になるため、こちらの判断によって単独で事前に動くことは難しい。子どもが増え続けている学校の増改築を行うときには、学童クラブも一緒に建設してもらうよう、事前に調整し、協力を得られている。

委員 もし定員が多いのであれば希望を出さないという形で遠慮している保護者もいるだろう。保育園から学童クラブへの入会希望者は減ってきている。午後4時30分の愛のチャイム以降に帰る場合には迎えが必要という点は、働く保護者から使い勝手が悪いと聞いている。

事務局 保護者の迎えは必ず必要なのではなく、小学1年生など低学年の児童には、慣れるまでの間、保護者の迎えを勧めていることはある。同じ方向に帰る児童は数人でまとまって帰るよう配慮をしている。

会 長 平成29年度学童クラブ事業の新設等については、了承を得られたものとしたい。

(4) 平成29年度小規模保育事業の開設について

委 員 非内定者は381人であり昨年よりも減ってきているが、待機児童はまだまだいるということか。

事務局 今回の申し込みには認可保育園の転園者も含めて選考している。非内定者は381人となるが、その後の二次もあり、認証保育所や認定家庭福祉員、管外の施設の利用者も出てくるため、最終的な待機児童は減るだろうと考えている。

委 員 最近、認可されているにも拘らず、問題がある保育園がニュースになっている。開設前の監査は厳しいと思うが、小平市では開設後の監査をどのように行っているのか。

事務局 開設後には東京都の指導検査が入り、運営状況や財務状況、保育に関する必要な書類が整っているのかななどを、細かく検査している。また、第三者評価を3年に一度程度、受けてもらっている。質を高めるという意味で巡回相談や保育士研修、合同園長会なども行っており、市は継続的に関わっている。

会 長 平成２９年度小規模保育事業の開設について、了承を得られたとしたい。

(５) その他について

特になし